

会 議 録

会 議 名	第9回市民協働に関する小金井市実態調査小委員会
事 務 局	市民部コミュニティ文化課文化推進係
開 催 日 時	平成22年11月26日(金) 午前10時05分～11時35分
開 催 場 所	前原暫定集会施設A会議室
出 席 委 員	山路憲夫小委員長 白井亨委員 川合彰委員 玉山京子委員 今井啓一郎委員
欠 席 委 員	
事 務 局 員	1 小金井市コミュニティ文化課 文化推進係長 山田耕太郎 文化推進係主事 岩佐健一郎 2 小金井市社会福祉協議会 (1) 小金井市市民協働支援センター準備室 市民協働推進員 加藤進 市民協働推進員 佐藤宮子
傍 聴 の 可 否	㊦・一部不可・不可
傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由	
会 議 次 第	1 市民協働に関する小金井市実態調査(アンケート調査及びヒアリング調査)結果報告書の内容について 2 市民協働に関する小金井市実態調査(アンケート調査及びヒアリング調査)結果報告書の活用方法について
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 要 旨	別紙のとおり
提 出 資 料	1 市民協働に関する小金井市実態調査結果報告書(案) ※ 報告書(案)の一部を提出。
そ の 他	

## 会 議 結 果

- 1 市民協働に関する小金井市実態調査(アンケート調査及びヒアリング調査)結果報告書の内容について
  - (1) 資料として提出した報告書(案)(調査の概要、全体調査票)を説明し、概ね了承された。
  - (2) 未提出の報告書(案)(A・B・C調査票、ヒアリング調査)についても、報告書(案)(調査の概要、全体調査票)に沿って作成することとなった。
  - (3) 上記の詳細な報告書とは別に、全体のまとめをA4判1枚程度で作成することとなった。
  
- 2 市民協働に関する小金井市実態調査(アンケート調査及びヒアリング調査)結果報告書の活用方法について  
一定の議論がなされ、検討委員会でさらに議論することとなった。

## 会 議 要 旨

【小委員長】 次第の（１）「市民協働に関する小金井市実態調査（アンケート調査及びヒアリング調査）結果報告書の内容について」を議題とする。

【事務局】 （資料として提出した「市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）（調査の概要、全体調査票）」について説明）

【小委員長】 A・B・C調査票についても、これと同様のまとめを作成するのか。

【事務局】 同様のまとめを作成し、次回の小委員会に提出したい。

【小委員長】 ヒアリングのまとめもなかなか難しいのではないか。

【事務局】 ヒアリングについては、インパクトのあるやり取り部分を手短かにまとめていきたい。

【小委員長】 このような詳細なまとめとは別に、これから市民協働を進めていくにあたってどこが問題なのか、アンケート調査とヒアリング調査のポイントを５つか６つくらいに絞り、A４のペーパー１枚程度にまとめることがよいと思う。

【委員】 まとめの中のまとめということか。

【小委員長】 そのとおりである。アンケート調査とヒアリング調査のポイントを各委員から出してもらいたい。一つは、職員に市民協働についての認識のずれがあるということは、きちんと書かなければいけないと思う。

【委員】 認識のずれと同時に、今なぜ協働が必要かという強い意識が全体的に不足している感じがする。

【小委員長】 あるべき市民協働の姿として、これからどう展開していけばいいのかという意識が欠けている感じである。

【委員】 私が携わっているハンディサポート事業は、市から補助金が出ているが、今回の調査に協働事業として挙がってこなかった。協働そのものだと思うが、職員に協働という認識がないのが不満だ。本来地域社会で必要だが、現実に市だけでできないから市民団体と組んでやっている、まさしく協働だと思う。

【小委員長】 ある程度公益性を認めながらも、お金を取る事業については協働はできないという硬直した切り方をしている。場所の提供の仕方にしても、市報の載せ方にしても、今までの行政の枠組みをもう少し幅広く考えてもらう必要がある。市民協働を本当に進めていくのであれば、その枠を取り払ってもらいたいということも出していいのではないか。

【委員】 協働についても条例の枠がある方がすっきりすると思う。

【小委員長】 条例を制定すべきだということも提言の一つにあってもよい。

指定管理者のようなやり方ばかりが増えていくのも問題だ。他市の例だが、市内のNPO法人を排除し、市外のプロ的な社会福祉法人をファミリーサポートセンターの指定管理者として管理運営を丸投げしている。市民協働のあり方を考えれば、指定管理者の現状は見直すことが必要ではないかという程度は、言ってもよいのではないか。

**【事務局】** 小金井市の子育て支援の手引書のようなものとして、「のびのびこがねいっ子 みんなで子育て応援ブック」というのがある。最初は行政が市民編集委員を募集して、編集は「のびのびこがねいっ子」編集委員会、事務局は子育て支援課、児童青少年課で平成14年に作成した。2回目は、市民編集委員会という形ではなく、ココプラネットという市民の編集協力のような形で作成した。3回目は、行政が市民団体に編集を委託する形で作成した。発行者はいずれも小金井市である。昨年度市民団体を対象に協働の調査をしたが、「のびのびこがねいっ子」の編集に携わった市民がヒアリングに対して、市民編集委員として作成したときは様々な提案が実現できて大変よかったが、平成18年に受託した際は一事業者として扱われ、対等な会話ができなかった。市民と委託先という立場によっての違いに驚いたと述べている。

**【委員】** 委託先ということになれば、意見を聞いてもらうというよりも下請け状態だということである。今回のアンケート調査に、子育て支援課と児童青少年課が現在実施している協働事業として挙げたのが、それぞれ1事業ずつである。多くの市民がこれだけかかわっている課がこのような状況だ。たとえ一部でも行政がかかわって事業を広げた場合、何かがあったときに責任が取れないということかとも思う。

**【小委員長】** 確かに子育て支援課と児童青少年課については、業務の性格からいってもう少し市民協働が展開していくような回答があつてよかったと思う。

**【委員】** 次世代育成支援後期行動計画が今年からスタートしている。このかなりの部分を児童青少年課が担っているにもかかわらず、窓口は子育て支援課なので、どちらに持って行ってよいか迷ってしまう。両課で共有している情報もあまりない。

**【事務局】** B・C調査票に載せると、市民に対して市民協働で実施する責任が出てくると考え、財政状況が厳しく予算の確保も難しいことから、このような回答になったとも考えられる。

**【小委員長】** 市民協働を進めるためには、財源の問題もあるが、お金がなくともできることも結構ある。例えば、市民を活用して情報をとるなり、ネットワークをつくるようなことはできるのではないか。行政としてその一步が踏み出せていない。

【委員】 結局人を出すか、金を出すかの問題だと思う。金を出さないと人も出しにくいという雰囲気がある。金は出さないが人は出すなどのことがあってもいい。意欲のある職員が協働しやすい環境を作ってもらわないと無理だ。

【小委員長】 市民協働のコーディネートをしたり、何でも相談に乗ってくれる組織の整備が必要だ。今後設置する市民協働支援センターのあり方にも関係してくる。コーディネート機能や相談機能を行政内部に置くのか、センターに置くのか、あるいは両方に置くのかという問題もある。

【事務局】 センターを単なる市民活動の場として機能させるのか、それとも行政と市民の協働の推進役として機能させるかということもある。これはセンターのネーミングにも影響してくる。

【小委員長】 情報システム課からは、コミュニティポータルサイトを運営委員会方式で、市民の手で市民の意見を生かして作りたいという話も聞くことができて、よかったと思う。

【委員】 今なぜ市民協働が必要かという一番大事なところがどうしても弱い気がする。

【小委員長】 財政的にも非常にせっぱ詰まっている一方、少子高齢化が進みやるべき行政課題、地域の生活課題が増えている中で、今までの行政のやり方ではもうやりきれないという危機意識が乏しいということも、まとめとして書いてはどうかと思う。

【委員】 知恵と人手が必要な部分を市民が担うので、行政がちょっと支援してほしい、そうでないとその活動は立ち消えになってしまうということを訴えたいところだ。子どもは社会が育てるのだということから考えると、子育てに行政の支援がもう少しあってもよいと思う。

【小委員長】 従来型の予算の配分に問題がある。それを考える場合の切り口は、市民協働ではないかと思う。

【委員】 予算を付けてほしいなどのぜいたくは言わないが、せめて助成金や補助金を一緒に探してくれるとか、知恵を絞ってくれてもいいのではないか。

【小委員長】 報告書に盛り込むような論点は大体出されたと思う。

【事務局】 ヒアリングを含めて残りの報告書（案）を12月末までに作成する。最終の小委員会が予定されている1月14日の前の12月末に小委員会を開催していただければ、それを示して議論してもらえる。

【小委員長】 それでは、12月27日（月）午前10時から小委員会を開催する。

（以上）

## 第9回市民協働に関する小金井市実態調査小委員会次第

- 1 日 時 平成22年11月26日（金）午前10時～正午
- 2 場 所 前原暫定集会施設A会議室
- 3 次 第
  - （1）市民協働に関する小金井市実態調査（アンケート調査及びヒアリング調査）結果報告書の内容について
  - （2）市民協働に関する小金井市実態調査（アンケート調査及びヒアリング調査）結果報告書の活用方法について
- 4 提出資料
  - （1）市民協働に関する小金井市実態調査結果報告書（案）
    - ※ 報告書（案）の一部を提出。